令和４年度　部局経営目標（達成状況）

年度	令和４年度	作成日	令和5年3月31日
部局名	落合振興局	部局長名	河本　京子

（１）部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

１災害に強いまちづくり 【№11：住み続けられるまちづくりを】
市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。

２生涯を通じた健康づくりの推進 【№3：すべての人に健康と福祉を】
持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。

３市民と協働・連携したまちづくり 【№11：住み続けられるまちづくりを】
市民との協働、連携によるまちづくりを推進し、地域課題の解決や地域活性化に向けて自ら取り組む地域づくりを進め、持続可能な地域社会の実現を目指します。

４地域の強みを活かした地域振興 【№11：住み続けられるまちづくりを】
歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。

５移住・定住の促進 【№11：住み続けられるまちづくりを】
移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。

６多様な学習の場づくり 【№4：質の高い教育をみんなに】
豊かな人間性と教養を獲得するための、生涯にわたる市民の学習機会の提供に努めます。

（２）事業成果目標

1-①自主防災組織の強化
・管内の自主防災組織については、設立が普及してきたことから、今後は自主防災組織の育成強化に重点を置き、地域防災力（自助・共助）の向上を図ります。また、未設立自治会については、引き続き設立にむけてのサポートを行っていきます。
・管内自主防災組織が自主的に実施する研修会や避難、防災訓練を支援します。
・自主防災組織と連携し、感染症対策を含めた避難所の開設運営訓練を行います。
・管内の既設立の自主防災組織に対して、引き続き防災の最新情報など啓発活動を行っていきます。

指標名及び目標値

指標：①避難訓練回数
②啓発回数

目標値	実績値	評価	次年度への課題
①　1回 ②　2回	①1回 ②2回	自主防災組織へ出前講座を実施し、育成強化を行った。避難訓練については、予定していたがコロナウイルス感染拡大のため、中止となった。地域に根付いた防災意識の醸成を図るため、最新の防災情報を郵送するなどの啓発活動については行った。	コロナウイルス感染症のため、自主防災組織の活動自体は低調で防災意識は低下していると思われるが、自助共助意識の向上を図るため、効果的な方法を検討し、自主防災組織の育成強化を行っていく必要がある。

<table>
<tr><td rowspan="2">2-①健康づくりのための実践活動支援
地域住民の健康づくり・生きがいづくりを目的とした「集いの場」の活動を支援し、介護予防や健康増進活動を推進します。
・生活支援コーディネーターや地域住民と連携し、「集いの場」の立ち上げを支援します。
・生活習慣病の重症化予防や栄養・口腔についての健康教育を行い、フレイル予防の普及啓発に取り組みます。</td><td colspan="4">指標:①「集いの場」の新規開設数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td></td><td>７か所</td><td>5か所</td><td>現時点で集いの場は5カ所新規開設できました。あと2カ所の開設準備をしています。生活習慣病予防・フレイル予防の健康教室は8カ所開催でき普及啓発に取り組みました。</td><td>今年度の目標はほぼ達成できました。引き続き、「集いの場」の活動を支援し、介護予防や健康増進活動を推進します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3-①協働のまちづくりの推進
地域振興計画に基づく観光地域づくりの推進
・計画に従い現在進行している事業以外の観光地域づくり事業を掘り起こします。
・自らが担い手となる人材の掘り起こしを行います。
・各地域振興事業がさらなる発展を遂げるよう地域を越えた交流の場の情報発信を行います。</td><td colspan="4">指標:①新規事業数、②支える人、③関係人口</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td></td><td>①１事業
②2人
③２人</td><td>①４事業
②１７人
③５０人</td><td>農村RMO吉縁起村協議会による事業、落合地域の３農事組合法人が集まり始まったプリンセスサリー事業、未利用農地の活用を目指すコケ栽培事業が立ち上がり、新産業創出の機運が高まっています。</td><td>次年度は、掘り起こした新規事業について自活した取り組みとなるよう支援を継続すべきと考えます。また、適切な補助制度の提案も併せて行っていく必要があります。</td></tr>
</table>

4-①地域振興事業

【津田地区】

・上田地域振興事業

上田地区では、複合施設としてリノベーションした「UEDA VILLAGE（ウエダビレッジ）」の取り組みが高評価となっており、若年層の観光客やファンの獲得に成功しています。一方、新型コロナウイルスの影響が、地元住民による従来からの地域活動に停滞を招いています。引き続き持続可能な地域を目指し、新たに発生した地域課題の解決を支援します。

これまでの事業から得られた実績（ノウハウと人材）を他の地域や団体に波及させるために、全国から多彩な人材を呼び込んでいるUEDA VILLAGEのワーケーションを活用して、交流から関係人口を増やし、移住・定住につながるように支援していきます。

・吉地域振興事業

吉地域では、地域住民が「吉縁起」組織を立ち上げ、地域活性化10年計画の取り組みを始めています。

近年交通量の増えた県道沿いに、観光案内所及び特産品製造・販売所の機能を併せ持つ、地域の活動拠点「吉縁起村　立寄処」を整備しました。

ここで、真庭市の南の玄関口として観光客を受け入れるとともに観光客との交流活動を進めることで関係人口を創造し、持続可能な地域をつくろうとしています。このため昨年度から「UEDA VILLAGE」との連携を強化してきており、今年度は上田地域のワーケーションや街中の活動拠点施設と連携し、来訪者に広域的な交流で学び、楽しんでもらう事業を予定しています。

【別所地区】

・別所地域振興事業

別所地域では、全国有数の「醍醐桜」が存在しています。しかし、観光客が訪れるのは桜のシーズンのみであり、また訪れた観光客との交流が進まず、関係人口の創出には至っていませんでした。そこで「別所小学校区をよくする会」は、廃校となった旧別所小学校とシーズン外の桜を活用して観光から体験、そして交流から関係人口を創出する事業を展開することで、持続可能な地域をつくろうとしています。このようなことから、今年度も旧別所小学校を活用したアートによる交流事業とシーズン以外の観光を促進する事業により、交流活動を活性化させるよう支援していきます。

【中心部活性化】

落合中心部の街中では、様々な団体が多彩な活動を行っており、垂水向津矢住民会では、このような活動を住民に知ってもらおうと街づくり勉強会等を開催してきました。このような取り組みの中で、多彩な団体がそれぞれお互いを知らず、独立して活動している課題も分かってきました。そこで近年、街中で整備された地域の拠点施設(「おチアーズはうす」や「落合SAKAI-e」)を活用して「まちなか拠点を活用した学びと交流事業」を実施することで、地域や団体の枠を越えた交流連携ができるよう支援します。

指標:①交流事業の開催数、②支える人、③関係人口

目標値	実績値	評価	次年度への課題
①８回、 ②８人、 ③８０人	①8回 ②８人 ③900人	各地域において独自の取り組みが行われました。特に津田地区については吉地域と連携して新しい広域での地域振興モデルを示されています。	既に、自立した地域独自の取り組みが根付いています。引き続き広報活動等の後方支援を継続していくべきと考えます。

<table>
<tr><td rowspan="2">5-①地域間交流の推進
・おちあい元気フェスタは、真庭市内の地域の活性化と広域交流を図るためのイベントと位置づけ、様々な団体、地域、人材に参加していただくことで、おちあい元気フェスタを地域を越えた交流の場としていきます。実行委員会自らが自由な発想で主催していく活動となるよう支える人材の掘り起こしと多彩な人材の事業参画を推進します。</td><td colspan="4">指標:①支える人、②交流人口</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td></td><td>①３人、
②
１,000人</td><td>①3名
②200人</td><td>新型コロナウイルスの感染拡大にともない今年度も感染対策を考慮した集客を限定した交流イベント「モルック大会」を開催しました。幅広い年代層が集まり素晴らしい交流がおこなわれた。</td><td>次年度は、本来の大規模イベントを開催するべきと考えます。実行委員会委員の交代の時期でもあり、新しい体制で新しい形での交流イベント開催が望まれる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">【多様な学習の場づくり】
6-①学びの場の充実
・公民館講座の積極的な情報発信を行い、利用者の増加につなげます。
・長期休業中の子どもの居場所づくりとして、文化活動や学習支援など高校生や教員OBなどのボランティアや図書館とも連携した講座を実施します。
・子どもを対象としたDVD上映会だけでなく、誰もが楽しむことのできるように開催内容や方法を工夫し実施します。
・乳幼児のいる保護者に絵本を読み聞かせることの大切さを伝えるため定期的に実施する読み聞かせ会や絵本を紹介する講座を実施して幼少期からの読書習慣の定着を図ります。
・こどもの読書活動推進のため地域内の新一年生の保護者に利用者カードの登録を呼びかけます。
・地元高校の魅力アップと学ぶ環境の整備として、健康・医療・子育てや農業分野などの蔵書の充実を図り、利用を促進します。</td><td colspan="4">指標:①図書館利用者カード新規登録者数、②図書貸出冊数、③公民館・図書館連携講座開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td></td><td>①100人
②5冊/人
③20回</td><td>①86人
②3.0冊/人
③21回</td><td>複合施設の強みを生かし、月１回以上の図書館・公民館講座を開催し、通常時はもとより、夏休みや冬休みも集中的に利用者・貸出冊数の増加に取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大によるおうち時間が増加したものと思われる来館者の減少により、最終的には伸び悩み、目標達成には至らなかった。</td><td>引き続き利用人数、貸出冊数の増加を行っていくが、特に保健センターも含めた複合施設であるため、児童書の充実を行い、検診に訪れる親子連れへ積極的にPRを行い、図書への親しみを感じてもらえるよう広報を図り利用促進につなげる。</td></tr>
</table>